

みつけた!

福岡県保育協会通信



By mutual confidence and mutual aid,
Great deeds are done, and great **discoveries** made;
相互信頼と相互扶助にて、偉大なる行為はなされ、偉大なる発見がなさる。
ーギリシアの詩人 ホメロス

福岡県保育協会会長あいさつ	2
福岡県知事あいさつ	3
福岡県保育士会会長あいさつ	4
第67回 筑豊地方保育事業研究大会報告	5
保育現場と保育者養成校の豊かな協働に向けて.....	6
みなさまこんにちは「ほいく福岡です」.....	7
公立発信	8
新園紹介	9
コラム・編集後記	10

公益社団法人福岡県保育協会 会長 万田 康

会長あいさつ



戦後第一次ベビーブーム（１９４７年から１９４９年）の１９４９年（昭和２４年）の出生数は２６９万７千人であり、２４年後の第二次ベビーブーム（１９７１年から１９７４年）の１９７３年（昭和４８年）でも出生数は２０９万２千人と、２００万人を超えていました。

しかし、１９６６年（昭和４１年）の丙午（ひのえうま）の年では、合計特殊出生率は１．５８となり、出生数が急激に減少しています。その後、１９８９年（平成元年）の１．５７ショックを経験し、バブル経済の崩壊の時代に突入するなど、この失われた３０年の間に少子と高齢化問題に積極的に取り組まなかったことが、現在の状況につながっています。

※来年の令和８年は丙午の年であり、迷信とはいえ出生数が減少するのではないかと心配ですが。（丙午は６０年周期で巡ってくる。）

高齢化の進展も深刻です。２０２５年（令和７年）を境に７５歳以上の後期高齢者が急増し、６５歳以上の高齢者も含めると国民の４人に１人が高齢者になります。７５歳の後期高齢者が、２０２１年では１，８８０万人いるのに対し、２０２５年では２，１８０万人になるといわれています。

高齢者が増えると、社会保険・医療介護体制の維持が難しくなります。その負担は現役世代にかかってくるわけですが、具体的にかかる負担は、社会保障の負担が増える、更には、後期高齢者の医療費は１割負担であり、残り９割を現役世代が支える仕組みであり、その費用を現役世代が給料から天引きされるので、知らないうちに手取りが少なくなることが予測されます。

高齢者が増えるのに対し現役世代も同じ様に増えるのであれば問題はないのですが、少子化時代を生きている現役世代の人口は増えないので、少ない人数でより多くの高齢者を支えることになります。１９９０年（平成２年）では高齢者１人を５．１人で支えていたが、２０１０年には１人を２．６人で支え

る、２０２５年では高齢者１人を１．８人で支えることになります。

人口構造がこうに変化する中で、今後さらなる増税は避けられない状況になってくると思いますが、このような現実を踏まえ、少子化で生まれてくる子どもの数が少なくなっても成り立つ社会を、みなさんと考え進めていく必要があると思っています。



福岡県知事 服部 誠太郎

知事あいさつ



公益社団法人福岡県保育協会におかれましては、日頃から保育の発展普及活動に大変熱心に取り組まれ、こどもたちの健やかな成長と子育て家庭の支援に多大なご貢献をいただいています。また、保育関係者の皆さまにおかれましては、保育現場の最前線で日々奮闘いただいています。万田会長をはじめ保育に携わる皆さまの熱意とご努力に深く敬意を表し、厚くお礼申し上げます。

さて、国は昨年１２月、令和７年度から１０年度末を見据えた「保育政策の新たな方向性」を発表し、保育政策の軸は、待機児童対策を中心とした保育の「量」の拡大から、職員配置基準の改善や地域のニーズに対応した保育の提供など「質」の確保に転換しました。また、就労要件を問わず時間単位で柔軟に利用できる「こども誰でも通園制度」の創設や多様なニーズに対応した保育の充実など、全てのこどもの育ちと家庭への支援を推進することとしています。

このような中、保育施設が地域におけるこども・子育て支援の機能を最大限発揮し、持続可能な質の高い保育を実現するためには、保育人材の十分な確保や、全てのこどもを安心して預けることができる保育体制の強化が重要な課題となっています。特に近年は、多忙な業務やニーズの多様化などから保育士不足が深刻化し、人材の確保・定着が喫緊の課題です。

このため県では、未来の保育の担い手を確保し保育の質の向上を図るため、今年度は高校生等に向けた保育現場の魅力を伝える動画を作成してＳＮＳ等で配信するとともに、夏休み期間に県内４地域で「保育士魅力発信フェア」を開催しました。また、貴協会にご協力をいただき、施設の保育実習生の担当者向けに研修を実施するなど、保育実習の充実も図っているところです。

さらに、保育士の離職防止と働きやすい職場づくりのため、パワハラ防止や持ち帰り残業をなくすなどの職場改善について助言を行うアドバイザーを派

遣しており、魅力的な求人情報の発信への助言も行っています。

また、保育士不足の解消に向け、地域限定で保育士と同様に業務を行うことを可能とする地域限定保育士の一般制度化や、保育士・保育所センターの法定化により潜在保育士の復職支援などを行う体制整備の促進等を行うとした改正児童福祉法が今年１０月から施行されます。

県としても、地域限定保育士制度を来年度から導入できるよう準備を進めるとともに、「福岡県保育士・保育所支援センター」による保育人材の就職支援や、「保育人材の相談窓口」の設置による離職防止に引き続き取り組んでまいります。

さらに、安心してこどもを産み育てられる環境づくりのため、今年度新たに、所得や第１子の年齢制限のない第３子以降の無償化に取り組む市町村への県独自の補助制度を創設し、子育て家庭への支援を強化してまいります。

こうした取り組みのほか、保育士の給与水準のさらなる改善や１歳児の職員配置基準の改善の早期実現を引き続き国に要望を行うなど、保育士不足の解消や保育の質の向上に今後とも努めてまいります。

こどもは福岡県の未来を担う宝、そしてすべての県民の元気の源です。これからも、こどもが健やかに育ち、子育てを地域全体で支え応援する社会づくりを進めてまいりますので、皆さまのご理解とご協力をよろしくお願い申し上げます。

結びに、貴協会のますますのご発展と、皆さまのご健勝とご活躍を心から祈念いたします。

福岡県保育協会保育士会 会長 佐保 真寿美

保育士会会長あいさつ



近年、保育を取り巻く環境は、大きく変化しています。少子化の進行や家庭環境の多様化、保護者の働き方の変化、地域社会のつながりの希薄化など、子どもを取り巻く環境は複雑さを増し、保育に求められる役割も広がりを見せています。そうした中で「こども家庭庁」が設置「こども基本法」が施行され2年が経過しました。この法律の目的は、全ての子どもが一人の人間として尊重され、安心して成長できる社会の実現であり、子どもの声を尊重し、自己肯定感を育むことは、将来の社会の基盤を築くことにつながるのです。私たち保育に関わる者にとっての大切な道しるべであり、日々の実践を支える大切な思いでもあります。

こども基本法には、「子どもは人格を有する一人の人間である」という理念が掲げられています。これは、保育の営みの中で日々感じていることであり、乳幼児期からの育ちを丁寧を支えることの重要性を社会全体で確認する意味を持ちます。

こうした社会的な変化を受け、保育士会では「学び合い・支え合い・発信する会」としての役割を改めて意識しながら活動を進めています。特に、研修の在り方については、コロナ禍で始まったオンライン研修は時間や場所を問わず参加できる利点がありましたが、同じ空間で顔を合わせ、意見を交わし合い、他園の仲間と直接つながることは、何ものにも代えがたい価値があります。講師から学ぶだけでなく、参加者同士の対話を通して互いの工夫や悩みを共有することができ、学びがより深まり、広がっていくのです。保育は人と人との関わりのなかで築かれる営みであるからこそ、研修もまた「出会いと交流」を大切にしていきたいと考えています。保育士同士のつながりは、孤立感を防ぎ、専門性を高め合う大きな力となります。経験豊かな保育士の知恵や工夫が若手に受け継がれる一方で、新しい発想や柔軟な視点がベテランに刺激を与えるなど、世代を超えた学びが生まれています。こうした関りを重ねることが、安心して働き続けられる環境づくりにもつながっていくのではないのでしょうか。また、保育士の安心が結果として子どもたちにとってより良い保育へと結びついていくと思います。

一方で、直近では田川市での「不適切な保育」が報道され、私たちに大きな衝撃を与えました。子ども達にとって安心できる場であるはずの保育園で信頼が揺らぐ出来事が起こったことは、私たちにとても深く考えさせられる出来事でした。だからこそ改めて、一人ひとりの子どもを大切に思う心や、子どもと向き合う気持ちを持ち続ける事の大切さを意識させられています。保育の専門性と専門職としての姿勢を見つめ直す機会となりました。

さらに、保育の意義を社会に発信していく事も重要です。こども家庭庁の創設を機に、子どもの権利や育ちへの理解は少しずつ広がりを見せていますが、保育の専門性や日々の取り組みが社会に十分理解されているとは言いきれません。そこで、広報誌や研究発表などを通じて、保育の現場から生まれる実践や知見を積極的に発信したいと思っています。子どもをまんなか捉えた保育の価値を社会と共有することは、安心して子育てできる環境づくりにつながり、未来を担う子ども達への投資であることを伝える良い機会になると考えています。全国保育士会でもスカンボムービーとして保育の専門性や保育の魅力、やりがい、保育士・保育教諭の仕事について発信しています。

これからも保育士会は、子どもの最善の利益を実現することを目指し、現場の保育士が安心して学び、支え合い、誇りを持って子どもに向き合えるよう取り組みを進めていきます。一瞬一瞬がかけがえのない時間である子どもの日々を豊かにするために、学びとネットワークを広げ、社会への発信を続けながら、保育士会としての歩みを重ねてまいります。



第67回筑豊地方保育事業研究大会報告

社会福祉法人清知会 みどり保育園 園長 一瀬 清子

すべての子どもが安全、 安心に過ごす 保育環境を目指して

本大会は、令和7年6月14日（土）、嘉麻市なつき文化ホールに於いて嘉麻・桂川地区保育協会の主管により、大会の主題 ～すべての子どもが安全、安心に過ごす保育環境を目指して～をスローガンに掲げ、初めての試みとして現地会場参加型とオンラインによるハイブリッド形式で開催されました。

近年、保育の現場では子どもひとり一人の個性や発達の違いを尊重しながら安心して過ごせる保育環境を整えることの重要性が高まっています。

子どもたちはそれぞれ異なる背景や特性を持ち、成長のスピードや興味関心も様々です。

そのため、全ての子どもが安心して過ごせる保育環境を整える事は保育者にとって重要な課題です。

また、障害の有無や言葉の発達、感覚の違いなど多様な子どもたちが共に育ちあう為には保護者や地域社会との連携も求められます。

保育園だけでなく家庭や地域と協力しながら子どもを育てる事がよりよい環境に繋がります。

すべての子どもが安全に成長でき安心して過ごせる保育環境を目指して本研究大会を開催しました。

当日の朝は雨が降り足元が悪い中、また、突然会場のエアコンが故障するというハプニングが起き、参加してくださった方々には大変ご迷惑をお掛けしました。それにも関わらず最後までご参加いただきましたことにお礼申し上げます。

また、沢山の保育園関係者の方にお越しいただき、会場は暑さと熱気に包まれ、式典には多くの来賓の方々にご臨席いただき、今大会への祝辞とともに現場で活躍されている先生方に多くのあたたかいお言葉を賜りました。

尚、今回、福岡県保育協会会長の万田康先生より功績が讃えられ、表彰を受けられました28名の先生方、心からお祝いを申し上げます。

事例発表では「子どもの幸せを求めて～子どもを通して見える家庭環境への支援」と題し嘉穂らいむ保育園 家庭支援主任保育士の村瀬美佐先生に映像を交えながら保育園の周辺の環境をご紹介いただきました。



また記念講演は関西国際大学 中尾繁樹教授をお迎えし「子どもの見方、指導の仕方」～今、保育所のできる事～について大変貴重なお話をいただきました。

事例発表、記念講演、どちらも『家庭支援』という言葉がキーワードで、双方ともに大切なのは互いに寄り添い共通理解を図ることで心を開けば信頼関係ができてくるということだと思います。

アフターケアなどまだまだ沢山の課題がありますが、これからも保育の専門性を高めるとともに子どもたちの心身の健やかな成長のため、保育の質の向上に努めていきたいと思っています。

最後に筑豊地方保育協会、大会役員、実行委員と多くの方々にご多大なご尽力を賜りまして本大会が無事に開催できましたことを心より感謝し、お礼申し上げます。誠にありがとうございました。



保育現場と保育者養成校の豊かな協働に向けて

はじめに一保育者養成の危機と大学の役割

保育者を目指して養成校に入学しようとする若者が減少の一途をたどっている。2025年現在、福岡県内の保育者養成校は22校、減少傾向が続く。多くの養成校が、学生募集に苦戦しているためである。私が所属する近畿大学九州短期大学も年々学生数が減少し、経営への不安は高まっている。1学年定員50名(2024年までは70名)の小さな短大だが、例年卒業生の9割以上が保育職に就き、そのほとんどが、立地する筑豊地域に就職している。

文部科学省の「2040年を見据えて社会とともに歩む私立大学の在り方検討会議」では、地方の保育者等エッセンシャルワーカー養成校が減少することの懸念が示され、対策が議論されている。そこでは、大学が地域と協働し、地域に対するプレゼンスを示すこと、端的に言えば「役に立つ」ことが求められている。大学教員の業務は、教育・研究・社会貢献といわれるが、社会貢献についてどれだけ真面目に考え取り組んできたか、個人的にも反省すべき点が多くある。この反省を基に、本学も遅ればせながら、地域の保育現場とのつながりを強めようと努力している最中である。私は、保育現場と養成校との豊かな協働のあり方を構想することこそが、現在・未来の保育者や子どもたちにとって重要だと信じてやまない。本学における、地域の保育施設との協働の事例をいくつか紹介しつつ、保育施設と養成校との今後の協働のあり方について、問題提起をしたいと思う。

本学における地域との協働事例

○研究とその還元

本学保育科教員の研究チームは、日本学術振興会の科学研究費の助成を受け、調査研究を実施した(研究代表者・堀田亮「幼児期の発達・発育に関する研究」; 2020-2024)。研究では、保育施設の保育者・保護者に対するアンケート調査や、子どもたちの運動能力検査を実施した。そもそも、地域の保育施設の理解と協力がなければ、研究プロジェクトの遂行が不可能である。そして、2023年に飯塚・嘉麻地区の保育協会主催の研修会の中で、研究成果を報告する機会を得た。現在、研究期間は終わったが、飯塚市保育士会・研究部会が引き続き、本学研究チームの教員と協働し、子どもたちの運動遊びについての研究を行っている。大学における研究が、地域の保育士会の研究につながったことは、大変喜ばしいこととらえている。

○授業での協働

通常短期大学では、実習は早くても1年後期から始まるため、入学直後の学生は、子どもたちと接する機会がない。しかし学生にとっては、大学の授業が保育現場や子どもたちの姿とつながることが望ましい。したがって、1年生「保育実習事前事後指導」授業内において、フィールドワークと称して、1年前期に保育施設の見学をさせていただく機会をいただいている。多くの保育施設の協力がなければ成立しないプログラムであり、保育現場の温かい協力に感謝している。また少なくとも教員が、卒業生や地域の保育者を招き、現場の視点から講義をしていただく機会を設けている。特に「保育のやりがい」などは、現職の保育者が語ってこそ、学生に説得力をもって届くと感じる。現場の先生方からも、「自らの実践を振り返るいい機会だった」という好意的な声をいただくことが多い。

○学内での就職説明会の実施—行政との協働

今年7月には、飯塚市の要請を受け、これまで飯塚市役所で実施されていた保育施設の就職説明会を、本学内で実施した。従来任意参加のイベントだったが、1・2年生の授業の一環と位置づけ、学生全員が参加した。全学生が参加したことで、保育施設からも好意的な反応を得た。本学学生にとっても実習や就職について考えるうえで、生きた情報が得られる機会となった。地域の保育人材確保という課題に対し、大学として貢献する手ごたえを感じることができた。

豊かな協働に向けて

冒頭述べた通り、多くの養成校が危機に瀕している。しかし地域において大学が果たすべき役割は決して小さくないし、まだまだ地域の保育現場の役に立つための資源や可能性が大学にはあると、僭越ながら考えている。しかし大学の側は、積極的に地域のために汗をかく、という姿勢がまだ不十分なところがあるのではないと思う(そうではない大学があることも認識している)。だから私たちは引き続き地域に大学を開いていく努力が必要であり、養成校が生み出さう積極的な価値や、地域の中で担いうる役割について、現場の先生方と一緒に考えていく機会や場を増やしていきたい。そして、保育現場の先生方にも、どうか積極的に地域の養成校を利用していただきたいし、保育現場から、多くの声を届けていただきたい。現在・未来の子どもたちの幸福へとつながる豊かな協働のあり方を、保育現場の先生方と一緒に、考えていきたいと思う。

こんにちは、
『ほいく福岡』です!

利用料
無料

『ほいく福岡』は、福岡県が運営している
保育人材のための総合支援サイトです。
今回は求人施設様向けに役立つ情報をご案内いたします!
詳しくは下記をご覧ください。

保育の魅力について

「ほいく福岡」のHPには、求職者や学生向けに保育施設の魅力をPRできるページをご用意しています。



1 園の情報やHP、SNS、園の魅力が表示されます!

「ほいく福岡」に求人掲載していただいている場合は、
ページ下部に公開中の求人情報も表示されます。

? ほいくの魅力に反映させるには ?

1 「ほいく福岡」の保育施設管理画面からログイン
求人登録がお済みでない方は福岡県保育士・保育所支援
センター(092-582-7955)へお問い合わせください。

2 施設情報管理タグから“ほいくの魅力紹介表示用保育施設
PR”の欄を記入して下さい。

新しい「ほいく福岡」では相談予約
ができるようになりました!
予約いただくと、スムーズに相談窓
口をご利用いただけます。



保育人材相談窓口について

●保育に関わるお仕事をされているすべての
方が無料でご利用できる相談窓口です。

●ご相談は、匿名で受け付けています。

●専任の相談員がお話しをお伺いします。

●職場の人間関係や職場環境に関するお悩み
など、お気軽にご相談ください。

オンライン相談も
ご利用いただけます!

面談

電話

メール

園長先生、経営者の
ご相談も
お待ちしております!

電話	●相談時間：月～金 9～17時 ●1回当たり：60分 ●通話料がかかります	専用ダイヤル 092-710-0521
面談	●相談時間：火～金 9～17時 ●場所：春日市原町3-1-7クローバープラザ4階相談室 ●専用ダイヤルまたは相談窓口のHPから予約できます。 ●LINE、Zoomでのオンライン面談も予約してご利用いただけます。 ※面談は要予約です ※LINEは公式アカウントとのLINEコール(通話機能)の利用に限られます。 トーク画面での相談はできません。	
メール	●受付：24時間 ●返信にお時間をいただく場合があります。 「保育の相談窓口」WEBサイト上のメールフォームから受け付けております	

●「こころとからだの健康コラム」(トピックス一覧)もごらんください。

私たちが
支援いたします!

福岡県保育士・保育所支援センター 092-582-7955
保育人材支援相談員 相談専用ダイヤル 092-710-0521

子どもたちのいま、そして未来へ ～地域のつながりを大切に～

杷木保育所 所長 熊谷 理恵

【はじめに】

朝倉市は福岡県中南部の筑後地域に位置し、豊かな自然、歴史、文化の調和したまちです。筑後川や山々に囲まれ、四季折々の自然を楽しめます。市内には9箇所の公立保育所（現在1園は休所）があります。その中で杷木保育所は、朝倉市南東部にあり、緑豊かな山や田園に囲まれ、家庭的な雰囲気の中で子どもたちはのびのびと園生活を送っています。現在、園児数の減少や保育士不足が進んでいく中、どの園もそれぞれの特色を活かしながら、地域に根差した保育を行っています。

【保育理念】

○子どもの笑顔が輝き、豊かに生きる力を育てる
○子ども一人ひとりを大切にし、地域・保護者と共に
子どもの育ちを支える

【地域との交流】

（寿大学運動会に参加）

地元の高齢者の方々との触れ合いで、寿大学（高齢者学級）の運動会に参加しました。一緒に玉入れをし、踊り等を見てもらいながら、楽しい時間を過ごしました。おじいちゃん、おばあちゃんも「よくきたね」と大喜びで、終始笑顔いっぱいの運動会となりました。

（地域のサロン活動参加）

高齢者の方々のサロン活動に参加し、歌や踊りを通して子どもたちの元気な姿を見て頂きました。子どもたちが肩たたきをする「ありがとう」「元気もらったよ」と沢山の方に感謝の言葉や声をかけてもらい、子どもたちの訪問を心待ちにいただいています。

（民生委員との交流会）

子どもたちが地域の方と触れ合う機会をもうけるため、令和6年度から主任児童委員が中心となって、民生委員と交流会を行っています。

誕生会、保育参観を行い、歌や体操等日頃の子どもたちの姿を見て頂きました。民生委員からは「子ども

たちはとても可愛い」と言って頂き、交流出来て良かったと思っています。

【杷木地域PTA連絡協議会】

杷木地域PTA連絡協議会は、地域内の小学校、中学校、高等学校（各々のPTA保護者の方）、保育所（3カ所）、認定こども園、杷木地域コミュニティ連合会、朝倉市教育委員会及び杷木地域主任児童委員で組織され、昭和38年から年2回（246回）も長きにわたって続いている協議会です。各学校、保育所の行事や取り組んでいることなどを報告しています。また、会議を通じてコミュニティ活動にも参加し、地域全体で情報交換、共有を行っています。保育所からはICT化の状況、安全計画について、事故やアレルギー児の対応等色々な取り組みを報告しています。今後も子どもたちの為に協議会を継続してほしいと思っています。

【小学校・中学校との連携】

小学校から先生方が来園し、就学に向けた連絡会を行っています。その中で学校紹介や鉛筆指導を受けた子どもたちは目を輝かせながら、小学校へ行くのを楽しみにしています。また、小学校体験では、年長児が小学校を訪問し、他の保育所の子どもたちと一緒に学ぶことで、顔見知りになる機会となり、充実した時間を過ごしています。

中学校は職場体験で2日間、お兄さんやお姉さんたちが仕事の体験を通して、子どもたちと沢山触れ合うことができています。

【おわりに】

年々、少子化による園児数の減少で、これから考えていかなくてはならない現実がそこに迫っています。その中でも、子どもたちは日常多くの人と出会い、学び、育っています。地域の方々に見守られながら、子どもたちは温かな愛情に触れ、豊かな経験をすることで大きく成長しています。保育所はこれからも、子どもたちの「今」を大切にしながら、「未来」へと羽ばたく力を育んでいきたいと思っています。

新園 紹介

自然豊かな岡垣町に 新園がオープンしました！ どうぞよろしくお願いします

岡垣中央台ほいくえん 園長 中村 知之

はじめに

「社会福祉法人ルピナス 岡垣中央台ほいくえん」は、令和7年4月1日に開園しました。

岡垣町は、福岡市と北九州市の中間に位置しており、都心へのアクセスが良く、海や山、自然に恵まれていることから人気が高まっています。私たちは、地域の方々が安心して育児ができる環境を岡垣町と連携を図っていきながらサポートしていきたいと思っています。

福岡市東区に60名定員の「キッズキッズ松香台保育園」、北九州市折尾に19名定員の「キッズキッズ折尾保育園」があり、新たに岡垣中央台ほいくえんが加わり、お互いに情報を共有しながら保育運営をしています。

保育運営については社会福祉法人ルピナスを立ち上げる以前から、小規模保育園に30年ほど携わった実績があります。運営方針や保育目標を大切にしながら、時代の変化とともに成長してきました。この岡垣町でも地域に必要とされる保育園を目指していこうと思います。

運営方針

～一人ひとりの個性を大切にした保育～

●「見つめて」育てます

一人ひとりの顔が違いうように、性格や発達も違います。子どもとたくさんかわり合うこと、いつも見つめることを大切に、しっかりとお子様の成長を見守ります。

●「思いやり」を育てます

年齢や性別の違う友だちと触れ合い、小さな子のお世話をしたり、お兄さんやお姉さんと遊んだりする日常の中から、社会のルールや生活の基本を学ぶほか、人を思いやる大切さを学んでいきます。

●「生きていく力」を育てます

子どもたちの力は未来に向かって無限大です。自分の力でたくさんのおびらを開いてほしい。だからこそ、自主性・創造性・想像力・好奇心などを大切に育てる保育をします

園の保育目標

- 食べる・寝る・遊ぶ生活を過ごし、身の回りのことが自分ででき、心も体も健康な子ども
- 地域や園の様々な人とのかわりを重ね、自分も友だちも大切にする子ども

- 身近な環境に好奇心をもって発見を楽しみ遊ぶ子ども
- 自然との出会いの中で、心と体を動かし表現する子ども

【保育・教育】

「SDGs」環境への取り組みとして、ペットボトルのキャップやカイロの回収したり、給食では無洗米を使用しながら、園でできることを積極的に行っています。

園では野菜の栽培から収穫を行っています。野菜の生長を楽しみにしながら収穫した野菜に喜び、給食として提供しています。また、定期的に「食育」や「クッキング」を取り入れ、食に興味関心がもてるよう、異年齢児交流にも力を入れています。クッキングでは5月にカレーを作って食べました。（以上児）食べるだけではなく、洗う、剥く、切るといった工程をそれぞれのクラスで行い、みんなでおいしくいただきました。

「ICT」を推進しています。保育業務、保護者との連携、請求管理についてはICTを導入しています。保育業務では書類に時間を取られすぎないようにすると共に、しっかりと子どもを見るゆとりがもてるようにしています。ただ、安全面や保育をする上で必要とされる書類については可視化して周知しています。保護者のおたよりのやりとりもICTを導入したことで、必要な情報を知った上で保育につなげることができています。

「一時預かり事業」を行うことで地域の子育て世帯を支援しています。事前登録を行った上で、予め利用するする日を伺い、無理なく保育士を配置できるようにしています。園庭で遊んだり、在園児と交流をしたりする姿が見られます。

【行政との連携】

開園前からたくさんの方の情報を頂きながら進めてきました。「待機児童の解消」や「支援を必要とする子どもの情報共有」、そしてこれから始まる「こども誰でも通園制度」など、園だけでは解決できない事案がたくさんあり、協力は不可欠です。地域に根付いた施設を目指していくためには、これからも行政との連携を図りながら園の魅力発信をしていきます。

最後に・・・

岡垣町の地域の方々が安心して預けられる保育園を目指していきます。どうぞよろしくお願いします。

転勤族だった 幼少期の経験を通しての 園長として

清和保育園 清原 聡

豊前市の山間部の保育園の園長をしています。現在は母の実家の寺院を継承することになっており、保育園も経営をしていたので、園長も勤めています。

両親ともに寺院出身ですが、2人とも寺院は継がず、普通に就職をしました。父は転勤族であったため、幼少期は父の転勤先と一緒に行っていました。小学校までに七回、保育園・幼稚園・小学校を転園・転校しました。この為、世間一般でいう幼馴染という存在はいませんでした。その為、現在生活している豊前市にも同世代の知り合いはほとんどいませんでした。この為、こちらに来たときは、園で修繕や物品の購入をする時でも、業者がわからず苦労しました。

このような経験をしたからこそ、今うちの保育園に通っている園児達にも、幼少期の同級生は一生の宝物であるという事を感じながら日々の園生活を送ってもらいたいと思っています。

当園は、豊前市でも山間部にあり、周りは田んぼと山があるだけです。駅周辺にいけば少し高いビルはありますが、それでも基本的には田舎です。当然のことながら、園庭にはたくさんの虫がいます。園に勤務し始めた頃は、「バッタやカマキリがいるからとって」と園児からいわれていましたが、最近ではカマキリをみかけてつかまえて園児たちに「持ってみる？」と聞くと、「持ち方がわからない」という答えが返ってきます。時代は変化して、田舎でも虫をつかまえることはなくなったのかと、こういう時にひしひしと実感します。

さて、インターネットの発達とともに、情報が溢れています。それは、保育に関しても同様で、検索すれば様々

な情報を知ることができます。私たち保育の現場にいる当事者は、そのあふれる情報と、自身の園の保育内容を見ながら、日々自分の園の方針を模索しながら日々の保育や行事の計画をたてています。

時代にあった保育を模索していくことは重要ですし、それによってこれまで見えなかった新たな保育の側面が見えるというのも事実ですが、わたしは前記したように、転勤族の親の子どもとして生まれて、地元と呼べる場所がありませんでした。

現在住んでいる豊前市には約 25 年生活していますので、同世代の友人や仲間もできましたが、幼少期とともに過ごした仲間というのは、大人になってからは得られない連帯感があるのではないかと考えます。

小さいころにこのようなことを友達とした、高校の時にこのような出来事があったというような経験は、人生における財産であり、それを一緒にした体験を持つ仲間はかけがえのないものです。

また、豊前市は人口が急速に減少しています。近年3年連続、新生児の出生数は 90 人を下回っています。この先人口が増加していくという事は、現状を鑑みると考えられません。都会は、便利で生活しやすいですが、自然豊かな田舎があつて、そこで都会生活の基盤である食料など様々な物が生産されていることを忘れてはなりません。今園に通っている子どもたちが大人になった時に、幼少期を過ごした場所が存続していること、その地元に残って地元を支えたいという意識を持ってもらうために、田舎ならではの特徴をいかしながら、日々の保育を模索してまいりたいと思い、日々を過ごしています。

【編集後記】

2週連続で学会に参加してきました。それぞれ多様な専門分野から「ヒト」を捉えようとする研究報告がたくさんあり、とても楽しい時間でした。

普段私たちがいわゆる「教育学」「保育学」など実践における学びが主流となって知識のアップデートに励んでいますが、その土台には地道な基礎研究、それをもとにした応用研究がたくさんあるということ、そして、それらの多岐にわたる報告を紐解いてまとめてくださる方々がいることを改めて認識したと共に、感謝の念を感じました。

私たちは目に見えるものだけで判断しがちですが、表立って目に見えない部分があつてこそその「現場」であることも忘れてはいけないことですね。組織においても同様ですし、広く世の中においても同様です。

最近の認知科学の分野の研究では、「いかに一人の人間がいるんな能力に欠けているか」ということが次々報告されています。その前提で改めて教育保育を捉えなおすことも大事なのではないのでしょうか。

広報部会 檜崎

発行日 令和7年10月17日
 発行者 万田 康
 編集者 塚本 泰有
 発行元 公益社団法人
 福岡県保育協会
 春日市原町 3-1-7
 TEL 092-582-7957
 FAX 092-582-7956

福利厚生充実による優秀な人材確保と
職員の皆さまに安心して働いていただくために

職員のための 病気とケガのトータルプラン

(業務災害総合保険)

- 特長1** 業務中、通勤途上のケガを職員の人数に関係なく補償します。
- 特長2** 園の職員全員を無記名で補償します。
●パート、アルバイト、派遣職員も補償できます。
- 特長3** 職員の増員・入れ替りも自動的に補償します。
●年間総収入による保険料で、人数の報告・精算などは不要です。
- 特長4** 病気による入院の補償や、がんによる通院の治療費補償も追加できます。
●病気を補償する特約については、事業主・常勤※の法人役員(理事・監事)、職員、常勤※のパート・アルバイトの方が対象となります。
※常勤とは、病気を被った時の直前6か月間における、週あたりの平均労働日数が3日以上、かつ週あたりの平均労働時間が15時間以上に該当する場合をいいます。
- 特長5** 労災事故の賠償金や訴訟時の弁護士費用を最大5億円まで補償できます。
●損害賠償金額の決定や争訟・弁護士費用などの支出にあたっては、事前に弊社の承認が必要です。

*「職務災害トータルプラン」は、「職員のための病気とケガのトータルプラン」に2022年9月1日より名称を変更しました。

お子さまの成長を安心して見守るために

キッズガード

(こども総合保険)

- 特長1** 団体割引適用 約50%割引 (前年2024年度、加入者数5万人以上の割引率)
園が窓口の団体加入制度だから、団体割引・損害率による割引が適用されています。
- 特長2** 24時間補償 ケガによる入院・通院は1日目から補償
ケガによる入院・通院など、園児をとりまく様々なリスクに対応した保障制度です。
- 特長3** ご家族の賠償事故も対象 国内示談交渉サービス付き
個人賠償責任補償は園児とご家族が対象です。
- 特長4** お電話一本でお支払い 簡単支払特急便
ケガによる入院・通院で10万円以下のご請求は、お電話一本で保険金をお支払いします。
※ご利用にあたっては所定の条件があります。

株式会社キッズサポートインシュアランス

大阪府大阪市中央区船場中央3丁目2番8号船場センタービル8号館327号
 TEL:06-4708-8815 FAX:06-4708-8858

※この広告は保険商品の特長をご案内したものです。詳細につきましては、パンフレット等をご覧ください。弊社までお問い合わせください。

〔全私保連推奨〕各種団体保険制度



有限会社ゼンポ



公益社団法人
全国私立保育連盟



東京海上日動

ほいくのほけん・こどもえんのほけん

保育施設向け 4月1日～1年間（中途加入可能）

Web
加入
可能

「園賠償責任保険」「園児団体傷害保険（学校契約団体傷害保険）」
「職員団体傷害保険（総合生活保険）」など、保育施設における最大
リスクを補償する1番の主力保険制度です。

やくいんのほけん

社会福祉法人向け 8月1日～1年間（中途加入可能）

Web
加入
可能

社会福祉法人の役員の業務遂行に関する賠償リスクやマスコミ対応費
用等のレピュテーションリスクに加えて、雇用関連トラブルによる法人
への賠償リスクもオプション付帯可能な保険制度です。

えんじのほけん

在園児向け商品 4月1日～自動更新（中途加入可能）

Web
加入
可能

「園内外問わず24時間お子さまをお守りする傷害保険」「扶養者に万が一
の場合の育児費用補償」など手厚い補償内容に加え、一般的な保険商品
と比較して約65%の割引となっているため非常に割安な保険制度です。

しょうがくせいのほけん

卒園児向け商品 4月1日～自動更新（中途加入可能）

Web
加入
可能

24時間のおケガ等からお守りすることに加え、学校からの貸出タブレットを
含め個人賠償責任保険など卒園後のリスクを補償します。本商品も一般的
な保険商品と比較して約30%の割引となっているため割安な保険制度です。

取扱
代理店

有限会社ゼンポ

TEL: 03-3865-3881
FAX: 03-3865-2806



引受
保険会社

東京海上日動火災保険株式会社

担当課支社：公務二部 文教公務室 TEL: 03-3515-4134

このご案内は施設賠償責任保険・生産物賠償責任保険・学校契約団体傷害保険特約付帯傷害保険・会社役員賠償責任保険・レピュテーション費用保険（レピュテーション費用特約条項付）費用・利益保険・雇用関連賠償責任保険の概要・団体総合生活保険（傷害保険）の概要についてご紹介したものであり、全ての事項を記載しているものではありません。保険の内容は各保険制度のパンフレットをご覧ください。また、ご加入にあたっては、必ず「重要事項説明書」をよくお読みください。詳細は契約者である公益社団法人全国私立保育連盟にお渡しする保険約款によりますが、ご不明点がありましたら、取扱代理店または保険会社までお問い合わせください。

連絡先



公益社団法人全国私立保育連盟指定／東京海上日動火災保険株式会社代理店

有限会社ゼンポ

TEL 03-3865-3881
FAX 03-3865-2806

〒111-0051 東京都台東区蔵前4-11-10 全国保育会館4階

無制限の動画や写真を通して、園と保護者の絆を深める連絡アプリ

全国私立保育連盟推奨（総代理店）



きっずノート

「きっずノート」は長く使い続けていただけるよう

初期費用0円・登録者数無制限

すべての機能使い放題／

月額 5,500円（税込）

無料体験実施中! →

お申し込みは
コチラ



ご相談・ご質問はお気軽に
きっずノートサポートセンター

TEL 03-3865-3886